

生きる力をはぐくむ総合的な学習の評価の研究

- 自分の活動を振り返り、自己の伸びを自覚できる自己評価の工夫を通して -

白石町立六角小学校 教諭 千綿 和也

要 旨

「総合的な学習の時間」において、「生きる力」の一つとして自己評価力を児童にはぐくむことは、重要なことだと考える。本研究は、自己評価力の育成のため、児童の振り返り活動や対話活動の場を設定し、実践を行ったものである。教師と児童が一緒に作った活動のめあてを評価規準とし、それを児童に具体的なことばで表わした振り返りの視点によって、活動を振り返らせた。その結果、児童は、活動を見直し修正したり、自分の活動の良さを見付けたりすることができるようになってきた。

<キーワード> 自己評価 評価規準 振り返り活動 対話活動

1 主題設定の理由

「生きる力」を身に付けさせるためには、「自分で課題を見付ける力」「自分で見通しをもって解決していこうとする力」「自分の活動を振り返り高めていこうとする態度」を育てることが重要であると考える。そのためには、児童自身が自分の活動を振り返り、「 のことをふしぎに思った」「今までとちがう調べ方ができるようになった」「 がもっと好きになった」など自己の伸びを自覚できるようにすることが大切であると考え。

本研究では、自己評価に焦点を当て、活動の結果だけでなく活動の過程や自分の伸びに目を向けるよう支援していく。そのための手立てとして、振り返り活動の場を設定し、振り返りの視点を工夫する。また、児童がより客観的に評価できるように、教師が児童と同じ視点で活動を見取り、児童と対話活動を行う場を設定する。このような振り返り活動と、対話活動により、活動を見直ししたり、自分の良さを発見したりして、自分を高めていく児童が育つと考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

自己の伸びを自覚できる自己評価の在り方と教師の支援の在り方を探る。

3 研究の仮説

活動の各段階において随時、活動の過程や自分の伸びに目を向ける自己評価を行い、教師の見取りを基に対話活動等の支援を行えば、自分を振り返り高めていこうとする子どもが育つであろう。

4 研究の内容と方法

- (1) 自己の伸びを自覚させるような自己評価についての理論研究を行う。
- (2) 授業実践により研究の仮説を検証する。
- (3) 研究のまとめをし、成果と今後の課題を明らかにする。

5 研究の実際

(1) 研究の全体構想

本研究では、「総合的な学習の時間」の活動で、自分の活動を振り返り、自己の伸びを自覚できるような自己評価と教師の支援により、「自分の活動を振り返り、自己を高めていく子ども」の育成を

目指して、研究の全体構想を図1のようにとらえた。手立てとして、児童の振り返り活動と教師と児童による対話活動を考えた。

(2) 手立て

振り返り活動や対話活動を行う上で、教師と児童で同じ視点をもつことが重要であると考えた。同じ視点で児童を見取り、支援をしていけば、児童の自己評価力が高まっていくと考えたからである。そこで、図2のような手順で、振り返りの視点(表1)を作成した。振り返りの視点を基に、児童と教師は、「活動のめあてをどれくらいのレベルで達成することができたか」について判断していく。

ア 振り返り活動

振り返りの視点を振り返りカードに書いて提示し、児童に1単位時間の活動終了後に振り返り活動を行わせる。また、本研究では、振り返り活動の場面を「つかむ」段階の終わりと「追求する」段階の中間として研究を進めていく。「追求する」段階の中間では、児童が自分の活動を振り返る時、どのような調べ方をしたか、何を調べたか、追求したときの姿はどうだったかをチェックカードで確認して、振り返りカードで、これまでの活動を振り返らせる。

イ 教師と児童の対話活動

教師の見取りと児童の振り返り活動を基に、教師と児童の対話活動を取り入れる。児童が自己を客観的に振り返り、高めていく力がまだ未熟であり、対話活動を通して、一人一人の児童が自己評価力を高めていくように支援していく必要があると考えたからである。対話活動は、主に表2のようなことを視点として個別に行い、児童の伸びや成長を認めた賞賛のことばや解決のための助言のことばを与えることで、自力解決へ向かって活動するよう支援していく。対話活動を行う時期は、各段階において教師が必要と考えた時に随時行う。児童の活動や態度などを見取る際は、振り返りの視点と同じ視点を書いた見取り表を活用する。毎時間の観察やワークシート、振り返りカードで児童の活動や考え、心情などを読み取り、見取り表に記入していく。

表2 対話活動の視点

めあてを意識した活動とその振り返りについて 課題や計画に対しての活動状況と広がりや深まりのある活動に ために変更したことについて 新たにできるようになったり、高まったりしたことについて 困っていることへのアドバイス 等

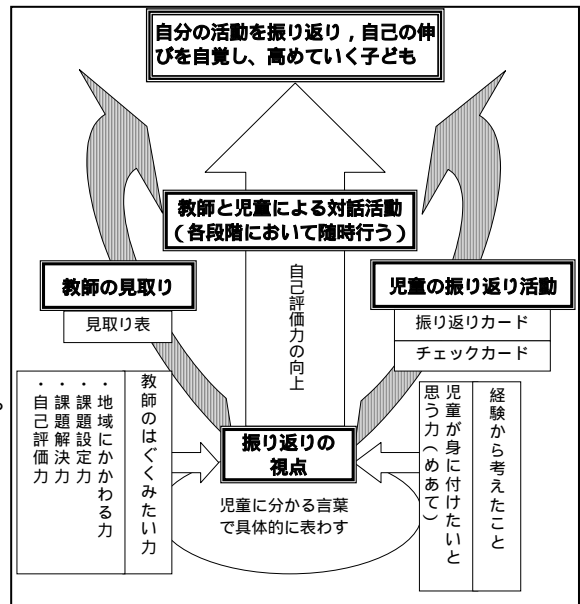


図1 研究の全体構想

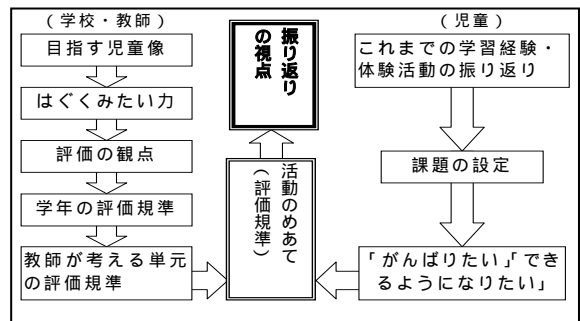


図2 振り返りの視点の作成の手順

表1 振り返りの視点

<p>「つかむ」段階 課題設定(テーマ設定)...自分がやりたいことで自分に合ったテーマを決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はてなややってみようから自分がやりたいテーマを決める。 2 計画や追求する活動、友達交流を通して、自分がやりたいテーマを実際に活動できるテーマに修正することができる。(もつとこだわって活動できるテーマ・実際に活動できるテーマ) <p>計画立案...「どうやってPRするか」を考えて、計画を立てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分がやりたいテーマから、大まかな計画を立てることができる。 2 追求する活動や友達交流を通して、詳しく、実際に活動ができるように計画を修正することができる。 <p>「追求する」段階 情報の集め方が分かる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 3つ以上の方法で情報を集める。 2 自分が集めたい情報に合った追求方法が分かる。 3 それぞれの追求方法の良さが分かる。 <p>自分のテーマに向かって進んで追求活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 計画通りに追求活動をする。 2 新しいはてなややってみようを見つけ、計画を見直し、広がりや深まりのある活動をする。 <p>自分に必要な情報をまとめることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集めた情報から自分に必要な資料を選んだり、まとめたりする。 2 集めた情報から、他の地域や他のうまかもんと比べるなどして、自分なりの考えをもつ。 <p>生かす段階..集めた情報から、PR活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 集めた情報をまとめて、自分なりの方法でPRすることができる。 2 追求活動やPR活動を通して考えたことを取り入れて、自分なりの方法でPRすることができる。 <p>活動の全体から(単元終了後の経過も含めて) 活動を振り返り、次の活動のめあてを決めたり、活動を見直したりすることができる。</p> <p>自分の生活を見直し、地域にかかわろうとする。</p>

(3) 授業実践

「地域にかかわる力」「課題設定力」「課題解決力」「自己評価力」の4つの育てたい力を身に付けさせることを目的に、授業を構成していった。抽出児の行動で授業の流れを振り返っていく。

ア A児の振り返りと教師の見取り

(ア) 「つかむ」段階

A児は、課題設定をするとき、PRするものは「須古寿し」とすぐに決め、「須古寿しを給食に出してもらって六角小全校にPRする」という課題を設定した。「おばあちゃんを作っているから」「調べやすそうだから」と2つの理由を挙げた。興味・関心よりも容易に活動できることから課題を設定したことを強く感じた。このことから、A児の課題設定については、自分がやりたいことの中からテーマを決めることができていると考え、振り返りの視点を〔表1 課題設定-1〕とした。その後、「おばあちゃんと一緒に須古寿しを作って各学級に配り、食べ

させる」「須古寿しを作って、作り方のパンフレットと一緒に各学級に配って食べてもらう」と振り返り活動を通して、課題を変更した。このことにより、課題を自分がやりたいことから、より良い課題へと見直していったと考えられる。また、計画についても、友達交流を通して、深まりのある計画へと変更していったと考える。以上のことから、〔表1、課題設定-2〕のレベルまで向上したこと、計画の作成についても2〔表1、計画立案-2〕のレベルにあることを伝え、課題や計画がより詳しく追求することができるものとなったことを賞賛した。(表4、5参照)

表3 授業の流れと評価計画

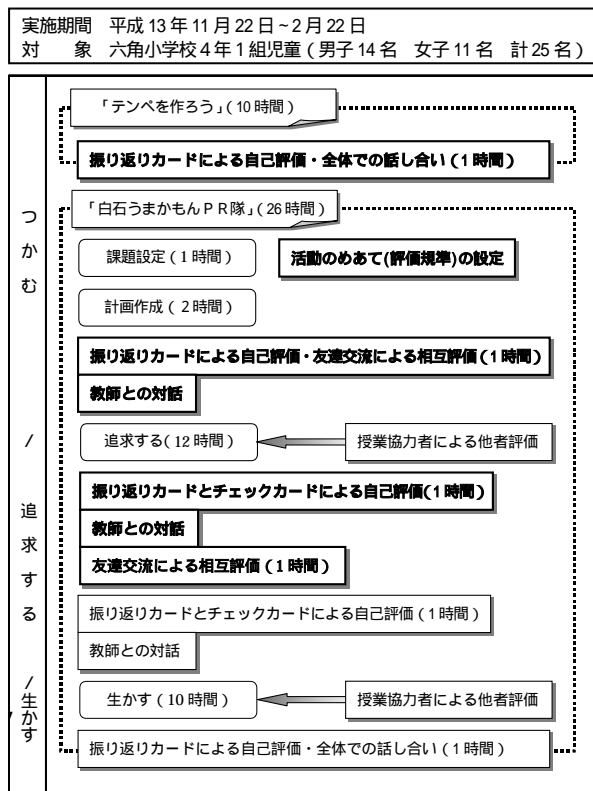


表4 「つかむ」段階のA児の振り返り

日付 (時数)	振り返りの視点		うれしかったこと・困ったことに対する記述	
	課題設定	計画立案	うれしかった・はてな	困った
12月6日 (11/36)	2		自分に合ったちょうど良いテーマを決めることができた。	
12月7日 (12/36)	1	2	大体の計画を立てることができた。	計画にどれくらいのかがかかると分らなかった。
12月12日 (13/36)	2	1	友達のアドバイスを聞き、計画を少し変更することができた。	

表5 「つかむ」段階のA児に対する見取り

日付 (時数)	振り返りの視点		A児に対する見取り
	課題設定	計画立案	児童の活動の様子
12月6日 (11/36)	1		PRするものはすぐに決めた。「自分の祖母が須古寿しをよく作ってくれる」と「調べやすくPRできそう」という理由で決めた。須古寿しが作られるようになった理由や作り方、材料などで、イメージマップを作っている。
12月7日 (12/36)	2	2	自分の祖母に作り方をインタビューして、それを基にパンフレットを作る計画を立てている。また、実際に祖母と一緒に作り、作り方を書いたパンフレットを学級に配ることも計画している。インタビューする内容についても考えている。
12月12日 (13/36)	3	2	友達交流で、「おばあちゃんだけでなく、須古寿しを作って売っているお店にも聞いて、作り方や材料などを比べ、違いを考えた方がよい」というアドバイスを受け、店に聞くことも計画に付け加えた。

(イ) 「追求する」段階

「追求する」段階に入り、インターネットや図書室の本で調べていたが、集めたい情報がないことに気づき、祖母に須古寿しの作り方をインタビューするという方法に変更した。そして、「家庭ごとに材料の違いや工夫がある」などの祖母のことばから、他グループを参考にして、4年生の各家庭に須古寿しについてアンケート調査をした。また、白石町の須古寿しの作り方について記述してあるパンフレットを参考にしている。

以上のことから、A児は、自分が集めたい情報に合った追求の方法を理解していると考えられる。ま

た、各家庭で須古寿しに使う材料が違うことに目を向け、アンケート調査をするなど、「つかむ」段階よりも課題に対するこだわりが見られる。そこで、振り返り活動後に教師との対話活動を行い、「追求の方法が良いこと」と「自分の活動にこだわって活動していること」を賞賛した。振り返り活動後、母親と一緒に須古寿しを作り、自分で作ったパンフレットと一緒に、各学級に配った。また、須古寿しを作っているところをビデオで撮影し、希望者に貸し出すことを考えている。振り返り活動により、自分の課題や計画を見直しながら、活動していった結果であると考え。最初は、「活動しやすいもの」として選んだ須古寿しを、活動をする中で、より良い課題へと見直ししながら、自分の課題にこだわり、活動できた。以上のことから、A児は、活動を通して、自分を高めていったと考える。(表6, 7, 8参照)

表6 チェックカードによるA児の振り返りと見取り

追求の仕方		自己評価	見取り	追求する自分の姿		
本・資料	図書や家の本など			自分のテーマにこだわって活動した	自己評価	見取り
	パンフレットなど			人のことを考えて活動した		
	町報・JA便りなど			安全を考えて活動した		
	新聞など			新しいはてなやってみてみたいを見つけた		
	インターネットなど			自分に必要な情報をまとめた		
	その他			地域にかかわって活動した		
くわしい人に聞く	お家の人			追求したこと		
	役場の人			作り方・とれる時期・工夫と努力	自己評価	見取り
	直売所の人					
	直売所のお客さん					
	JA・漁協の人					
	名人					
六角小学校の人						
農業訓練場の人						

表7 「追求する」段階におけるA児の振り返り

情報の集め方が分かる。	
1	3つ以上の方法で情報を集める。
2	自分が集めたい情報に合った追求方法が分かる。
3	それぞれの追求方法のよさが分かる。
自分のテーマに向かって進んで追求活動をする。	
1	計画通りに追求活動をする。
2	新しいはてなやってみてみたいを見付け、計画を見直し、広がりや深まりのある活動をする。
自分に必要な情報をまとめることができる。	
1	集めた情報から自分に必要な資料を選んだり、まとめたりする。
2	集めた情報から、他の地域やほかのうまかもんとくらべるなどして、自分なりの考えをもつ。
「楽しかったこと」「困ったこと」をくわしく書こう。	
ヤッター	
あのね	
おばあちゃんから須古寿しの作り方のメモをもらってきたので、パンフレットの参考にできた。須古寿しの問題点がわかった。おばあちゃんを作っているから、こだわって活動することができた。一人なので、意見がわからずにすぐにまとめることができる。	
一人なので、活動がちよっと大変(アンケート活動など)	

イ 児童の変容と手立てについての考察

自己評価力が高まったかについて表9の評価規準を基に考察を行う。

(ア) 児童の変容

a 「めあてを意識した活動をし、振り返り活動ができる」

B児で見ると、「つかむ」段階の振り返りカードには、活動のめあてとあまり関係のないことを記述していた。しかし、「追求する」段階では、活動のめあてに沿って記述をしている(図3)。このことから、活動のめあてを意識して活動し、振り返り活動をしていると考える。

表8 「追求する」段階のA児に対する見取り

活動のめあて		見取り
情報の集め方が分かる。		2
自分のテーマに向かって進んで追求活動をする。		2
自分に必要な情報をまとめる。		1
教師の見取り		
追求の仕方	主に祖母に聞いて調べている。また、町で出しているパンフレットで作り方を調べた。インターネットで調べたが、情報が集まらないことに気付く。他のグループが、クラスの保護者にアンケートしているのを見て、質問を考えアンケートを採った。	
と追求したこと	須古寿しの作り方や材料について調べている。祖母のことばから、「昔と今の材料のちがいが」「家庭ごとの材料のちがいが工夫」に目が向いてきた。また、「須古寿しを作る理由」にも目が向き、アンケートで調べた。	
追求する姿	自分で須古寿しを作ってみんなりに食べさせることに意欲をもち、作り方や材料について祖母から聞いたことをまとめていた。須古寿しは、売り買いするものではなく、家庭料理として、その家庭に引き継がれていくものとして考えている。	

表9 自己評価力の評価規準

評価観点	評価規準
自己評価力	めあてを意識した活動をし、振り返り活動ができる。課題や計画を見直し、広がりや深まりのある活動に修正することができる。自分が新たにできるようになったことや高まったことをとらえることができる。

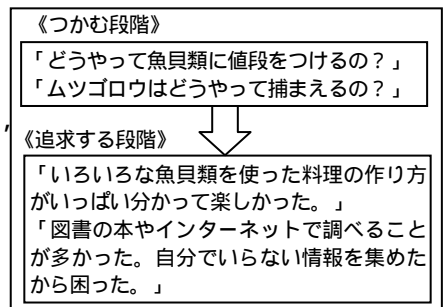


図3 B児の振り返りの活動の変化

b 「課題や計画を見直し、広がりや深まりのある活動に修正することができる」

C児について見てみると、課題を図4のように変えていった。C児は、最初は「活動しやすいもの」として選んだレンコンを、活動をする中で、課題にこだわり、「くわしく調べたい」「体験したい」と活動への意欲が高まってきたと考える。そして、課題に沿って計画を見直し、深まりのある活動に修正していったことがうかがえる。

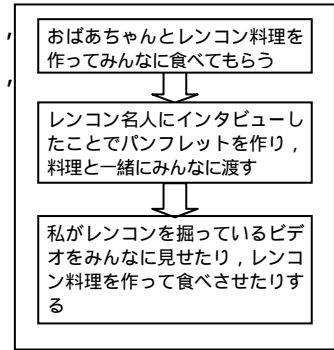


図4 C児の課題の変遷

c 「自分が新たにできるようになったことや高まったことをとらえることができる」

D児は、始め「J Aの電話番号が分からないから見学に行けない」とインタビューに行くことについて消極的であった。電話の掛け方をアドバイスしたり、教師と一緒に見学に行くことを告げたりしたことで、自信をもち、J Aに電話を掛け、見学に行った。振り返りカードには、「連絡のとり方や質問の仕方が分かり、分からないことを進んで質問することができた」と記述した。また、この見学の後、家でタマネギの作業を進んで手伝ったり、友達の家を借りて、自分たちでタマネギを作る活動を始めた。教師との対話活動を通してD児は、「この活動を通して、課題を決める力と地域の人と交流する力が高まった」と話した(図5)。このように活動を進める中で、自分ができるようになったことを自覚し、自信を付けていった。

ぼくは、「白石うまかもんPR隊」の活動で、課題を決める力と地域の人に聞いて課題を解決する力が付いたと思います。はじめはJ Aに行けなかったけれど、J Aでたくさんの質問をして、課題を解決することができました。課題を決めるときも、どれにするか悩んでいたけれど、自分がしたいことから決めていけばいいことが分かった。
次に、活動する時に、生かせると思います。(後略)

図5 D児との対話活動

(1) 本研究の手立て

本研究の手立ての有効性について、「追求する」段階の活動が終わった後に行ったアンケート調査で考察していく。

a 振り返り活動

90%弱の児童が、振り返りの視点を提示した振り返りカードを「よく役に立つ」「役に立つ」と答え(図6)、「自分の活動を見直すことができた」「できていることとできていないことを考えることができた」などの理由を挙げている。このことから、児童は、振り返りの視点を基に自分の活動を振り返り、「できるようになった」という自分の高まりを感じることができたと考えられる。また、自分の活動がうまくできないことから、解決の方法を考えるようになった。そして、試行錯誤の末にできるようになった喜びを感じることができた。

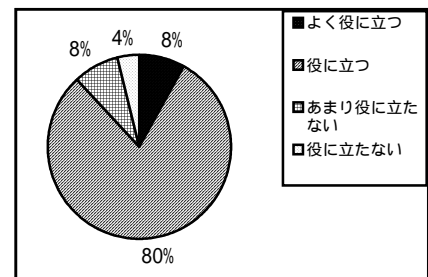


図6 振り返りの視点の有効性

また、図7で、チェックカードが「よく役に立つ」「役に立つ」と答えた児童の理由は、「次の活動が立てやすい」「簡単にチェックできる」「自分がしたことを確かめることができる」「やっていないことがわかる」など様々である。このことから、チェックカードは、児童自身が自分の活動をチェックすることに有効であったと考えられる。また、「役に立たない」という児童の理由は、「活動したことを忘れていた」「あまり見ていない」であった。「役に立たない」と答えた児童に対しては、チェックカードについての使い方について詳しく指導し、毎時間チェックさせることで、より有効な手立てとなると考える。

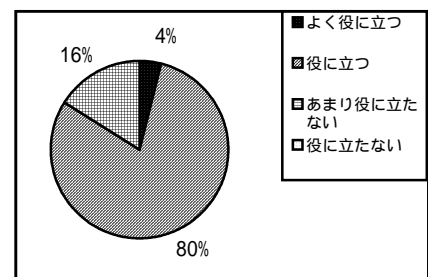


図7 チェックカードの有効性

b 教師と児童の対話活動

図8で、教師との対話活動を有効だと考えている理由は、「自分ができているところを教えてもらった」「がんばろうという気持ちになった」などがあつた。E児は、インターネットで自分の知りたい情報を集めることができたことでめあて〔表1, 情報の集め方-2〕を達成したと考えていた。しかし、振り返り活動と教師との対話活動により、〔表1, 情報の集め方-3〕のレベルまでがんばろうとする気持ちが高まつた。そして、活動を通して、インターネット、インタビュー、体験活動の良さに気付いた。このことから、教師と児童の対話活動は、活動の意欲と質を高めるのに有効であったと言える。

「あまり役に立っていない」と答えた児童の理由は、「自分ができたことがわからなかつた」「アドバイスをされたことをしていない」等であつた。児童の活動を見取り、適切な賞賛を与えたり、支援をしたりすることの重要性を再認識した。

振り返り活動と対話活動を行うことで、児童は、自分の活動を見直し、より良いものへと修正していったことが図9からも分かる。

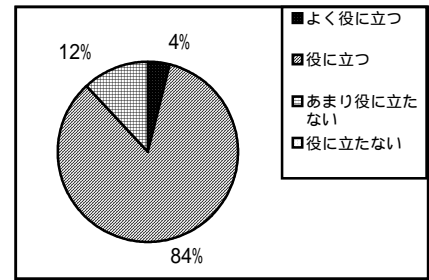


図8 教師との対話の有効性

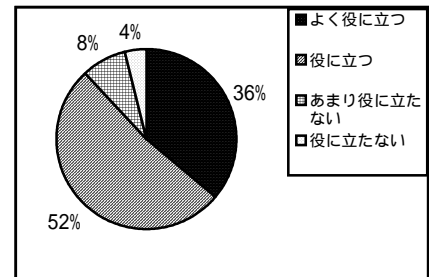


図9 活動の見直し

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究は、「総合的な学習の時間」の活動で、自分の活動を振り返り、自己の伸びを自覚できるような自己評価の在り方と教師の支援の在り方を探ることを目的に行った。その手立ては、児童の振り返り活動と、教師と児童による対話活動であり、それについて、児童の変容を踏まえた成果を以下に示す。

振り返りカードやチェックカードを使った振り返り活動により、自分が行ったことを確かめ、次の活動を考えた。課題や計画を見直し、より良いものを目指して広がりや深まりのある活動へと修正することができた。さらに、児童が活動への意欲を高め、主体的に活動する中で、自分でできるようになったことや高まつたことをとらえ、活動に自信をもって取り組むようになった。

教師と児童の対話活動では、活動のめあてや振り返りの視点を基に、身に付いた力や活動の高まりについて話し合った。その中で、児童の伸びや成長を認めた賞賛のことば、解決のための助言のことばなどを与えた。そのことは、児童は自分の成長に気付いたり、確認したりして、活動の質や意欲を高め、自力解決へと向かわせることに有効であつた。

(2) 今後の課題

児童自身が自分の活動を振り返る時に、客観的に判断していくのは難しいことである。今回は、振り返りの視点を活用したが、その内容や作成の方法等については、まだ、検討の余地があると言える。一人一人の児童の力を伸ばしていくために、更により良いものを作成していきたい。

《参考文献》

- ・小島 宏・寺崎 千秋編 『総合的な学習の評価計画と評価技法』 2000年 明治図書
- ・安野 功編 『「総合的な学習を創る」7月号臨時増刊号 総合的な学習の評価・新指導要録&通知表記入のヒントQ A47』 2001年 明治図書